

乳牛の見方飼い方

小野文真

一. はしがき

酪農の必要性は各指導機関から御指導を仰いでおられることと思うが、現在の経営規模で乳牛を加えるということは家族全体の意見が一致するということとはなかなかむづかしい。乳牛は年間 20 石—30 石を出すのが世界最高は百十石を記録し、北海道では 73 石、石川県で 70 石以上を記録している。又乳牛 1 頭年間 25 万円の収入を昨春までにあげた。過去において昭和 29 年には四国で 40 万円の牛が出たが、これは不安定な値段である。

従来私達が講習会できくときは酪農であり、家庭にかえって話すのは楽農であり、実行に移すと苦農になる現状であった。

次に乳牛から生ずる収入についてみると、年間 30 石搾乳すれば、1 升 50 円として 15 万円をあげるが、これを当地の耕地 1 反 5 万円の粗収入とすると、30 石、15 万円の粗収入は耕地 3 反歩の粗収入に匹敵する。だから 5—7 反の耕作で購入飼料によって乳牛を飼うとするならば絶対利益はないと断言する。5 割以上の購入飼料も又同じである。1 反で飼料作物を自給できたとすれば、1 反で 15 万円の収入を得たことになり、2 反を必要としたならば 1 反で 7 万 5 千円の粗収入があることになる。

家畜の中で乳牛が一番肥料を生産するが、農業試験場の試験では 3,000 から 5,000 貫を生産すると報告している。私は 30 石の乳牛で 5,000 貫を生産した。

反当稲藁 100 貫とすれば、反当 6—7 俵の米を供出し、1 俵に 2 貫の藁を必要とし、反当 15 貫の俵用藁が必要である。

(ロス 500 匁を見込んで 1 俵 2 貫 500 匁) だからこの計算から見ると反当 300 貫の藁は施肥されていな

いことになる。これをおぎなうためには乳牛飼育による厩肥の生産が第一である。

二. 経営にあった乳牛

乳牛を取り入れるならばまず飼料作物を作ってから取入れるべきである。乳牛の値段は 25 万—40 万円のものがあるが、30 石出す牛はどんな牛かというと、かりに雑種 15 万円で買えるとする、血統登録のものは 20 万円、高等登録のものは 25 万円はする。

私達は乳を搾るのみではない。私達の経営規模、技能、資本能力にあった牛でなければ、その農家に合った牛とはいえない。この点自己にあったものを選ぶべきである。この場合登録証に金をかけるのではなく、雑種でもよいから自分の経営規模に適合した能力をもったよい牛を選ぶべきである。デンマーク人エミールフェンガー氏は“28—30 石で脂肪率 3.5%もある繁殖率のよいものは手離すべきでない”といっている。つまり高等登録牛でなくても能力のあるものであればよい。

三. 乳牛の見方

次ぎによい牛の見方であるが、本によると血統によると書いてあるが、私は外貌のみで牛を判断することができるかどうかについて研究してみた。私は手相、人相があるように牛相もあると考え、つまり牛相について研究してみたが、次のことがいえる。

① 眼に生々としたツヤがあり、眼が張り出してすずしそうな牛は健康である。但し眼がかがやいているものはあらく、白眼の多いのは神経質である。又マツ毛が短かくてあらく、ソリをうつようなものは性質があらう。

岡山畜産便り 1956.07

- ② 耳のさきがトガっているものは敏感で、円いもので毛が粗く生えているものは鈍遅である。
- ③ 眼と眼の間隔の遠いもの、額の長さ中等のもの、口が大きく口が角ばって、口唇の線が一直線で強く、口角の強いものは食欲旺盛で健康である。(口が細く尖っていると餌を食いあさりするからよくない。)
- ④ 顎のがっちり張って眼と顎の間隔が広いものがよい。又顎と顎との開きのよいもの。(顎と顎との開きが狭いと下歯がのびて咬み合わせがよくない。)つまり上歯と下歯がよく合い、前歯も上下が合ったものをえらぶ。
- ⑤ 皮膚が柔らかくゆるやかで皮下結締織のやわらかいものがよい。(垂乳房のものが多い)
- ⑥ 胸が深く、脈延びがよく、肋骨の中が広く平坦で硬く、薄く、間隔が広く、良く張って、最後の肋骨間隔が指3本が入るほど広いものがよい。(肋骨の間隔の広いものは第一胃が大きく、もの食いがよい。)又一般に骨は硬く、平扁なもの程、乳が出る。
- ⑦ 乳房は前後左右の巾があり、腹にぴったりとついて、搾ったあとは形が小さくなって柔かなものがよい。
- ⑧ 乳鏡の中が広く股の薄いもの、乳静脈がよく発達して長く蛇行しているもの、乳頭の長さ、大きさが適度で配列のよいもの、血管のよく見えるものがよい。
- ⑨ 肢蹄の堅実なものがよい。
- ⑩ 全体として粗野の感じのしない、輪郭鮮明なもの、こういう牛は食欲旺盛で、乳をよく出す。

四. 飼い方のこつ

- ① 飼料成分をよく知って配合に注意する。
- ② 塩分、カルシウム分等鉱物質の適量を与える。
- ③ 自分の牛の飼料に対する好みをよく知って、飼料の与え方を工夫する。

- ④ 食べっ振や糞の臭い、形等に注意して、水、鉱物質、粗飼料、濃厚飼料の過不足を調節する。

五. 牛の健康を増進するには

日光浴、運動、手入が大切で、事情の許す限り、放牧、けい牧、引き運動等の機会を多くすることが望ましい。少くもワラや濃厚飼料のみに頼らず、良質の粗飼料を十分に与えたい。このためには、畑や水田裏作に牧草を高度に栽培するほか、未利用の畦畔、堤防、河川敷、山野等の野草をも利用したい。

六. おわりに

私は水田1町8反を耕作し、水田裏作としてライ麦を散播、3回刈しておる。田植は6月1日から3日頃に行い、ラジノクローバーを年間12回刈、或は放牧しておる。サイロは6尺に12尺のものを作っているが、私の飼料自給は現在大体65%である。

(3月13日、県農業試験場における農業技術講習会講演要旨。小野氏は岩手県紫波町出身、牛馬と生活を共にすること30余年、酪農家で黄綬褒章受賞者)